

課題／目的

観光立国の実現に向け、国立公園における訪日外国人利用者数や消費額を増加させる必要がある。2016年からのプロジェクト実施により、利用者が増加し、外国人受け入れ環境整備が一定レベル進んだが、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少。今後、利用者の回復とともに、新たなニーズ、新しい価値観に対応した質の高い公園利用、受入れに向けた取組が必要。

- ・2025年までに国内外の国立公園利用者数を新型コロナウイルスの影響前に回復させることを目指す。
- ・国立公園の魅力を活かせる受入環境を整備し、利用者数のみならず、滞在時間増加や満足度向上の促進施策を実施して、国立公園の保護と利用の好循環を実現する。

- ・政府が策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」(2016年3月)における2030年目標
- ・2020年に発生した新型コロナウイルス感染症の影響による国内外の観光客数の大幅な減少

インパクト

自然環境の保護と利用の好循環が図られるとともに、国内外からの来訪者・消費額の増加による地方の雇用・産業・人口が維持され、自然との共生社会が推進される。

- ・日本人国内消費額、宿泊者数
- ・訪日外国人旅行者数
- ・訪日外国人旅行消費額
- ・地方部の外国人延べ宿泊者数
- ・外国人リピーター率

インプット

R4要求：540百万、R3：540百万円、R2：540百万円、R1：512百万円、H30：380百万円、H29：398百万円

アクティビティ

⑦【ロジック】

- 先行する11公園を中心として、地域の自治体や民間団体等と連携し、以下の取組により受入環境整備と誘客を促進するとともに、他の国立公園全体に成果を展開する。
- ・自然体験型コンテンツの充実、旅行博の出展やビジネスマッチング等の支援、ガイド等の人材育成
 - ・公共施設への民間サービスの導入、公園事業の経営改善指導
 - ・利用者負担による保全の仕組みづくり
 - ・有識者会議の開催、各国立公園での地域協議会の設置・開催
 - ・脱炭素型の持続可能な観光地の形成、国内向けの情報発信等による誘客強化

アウトプット

⑤【ロジック】

- ・魅力的なコンテンツ等が増加し、受入環境が整えられる。
- ・公共施設のサービスの質が向上する。
- ・利用者から得られる協力金等によって自然環境保全や施設の維持管理等の資金が得られ、保全活動が行われる。
- ・プロジェクトの進捗管理、有識者意見の反映、自治体・民間事業者・関係省庁等との連携が図られる。
- ・国立公園の認知が高まる。

アウトカム

④【ロジック】

- 短期：国立公園の国内外の来訪者が増加し、滞在時間が長くなることにより、宿泊や食事、買い物等による消費額が向上する。
- 中期：国立公園の国内外からの認知が高まり、利用層が多様化し、質の高い利用が促進される。
- 長期：国立公園の利用による地域への経済的効果の波及に伴い、地域社会が充実し、さらに質の高い利用提供が進むとともに、地域において観光資源として自然環境の価値が認識されることで、地域による自律した自然観光資源の保全管理が促進され、一層の自然環境保全につながる。(保護と利用の好循環の実現)

本事業の範囲内

⑧【エビデンス】

- ・訪日外国人の「訪日旅行でお金をかけたいこと」は「自然体験・アクティビティ」58% (環境省「国立公園価値把握調査」,2017)
- ・国内で、コロナ収束後旅行先で行いたい活動第2位「自然や景勝地の訪問」(JTBF旅行意識調査2020)。海外でも旅行目的で自然・アウトドアニーズが高まる。
- ・訪日旅行を計画している外国人の約74%がウェブサイトから情報収集(観光庁「訪日外国人消費動向調査」H28.7~9月間をもとにしたJNTO資料)

⑥【ロジックの補足】

- ・磨き上げを行ったコンテンツ数
- ・入域料等の新規仕組み等の実施数
- ・地域協議会等の開催数
- ・国立公園オフィシャルパートナー企業数

⑩【見込まれるエビデンス】

- ・国立公園への訪日外国人利用者数、消費額
- ・国立公園利用者数、宿泊者数、認知度